

【会議記録】

第1回一宮市部活動地域移行検討協議会

日 時	2024年6月20日（木）15時00分～16時30分
場 所	一宮市教育センター 第1研修室
出席者	委員12名（宇佐美、土川、長谷川、高木、町田、五藤、伊藤、芳賀、江藤、花村、今村、森）

1 開会のことば

2 一宮市教育委員会あいさつ（教育長）

3 報告事項

令和6年度モデル事業・活動状況について

- 事務局から以下のように報告があった。
 - ・昨年度5団体での活動から、今年度は13団体11種目の活動が決まっている。活動場所も27か所に増え、参加者は計600名まで増えた。また、5月よりスタートした愛知県が導入した人材バンクでは、現在23名から指導者への応募があり、順番に面接を行っている。
- 令和6年度モデル事業に、中学校の部活動にはないダンス、ストリートダンスがあるが、子どもたちの選択肢や活動できる場を広げる意味でも、子どものニーズに合った活動を増やしてほしい。
- モデル事業の美術では、参加生徒の感想を見ると、「友達と話し合ってやれるところが面白い」「互いに刺激し合って、絵がうまくなった気がする」「次はこんなことがやりたい」等、子どもたちはとても前向きな気持ちで参加している。

4 議事

（1）令和5年度モデル事業・検証について

- 事務局から以下のように提案があった。
 - ・昨年度末に実施したアンケートでは、98%の生徒と93%の保護者が「次回も参加したい」と回答し、指導に対する満足度も高かった。事業者からは、「事業の年間計画が不透明であったこと」「報告書提出にかかる会計処理」「活動日の設定」に対する課題があがった。会場校からは、「鍵の開閉」「学校部活動との活動日の調整」「駐車場」に対する課題があがった。鍵については、電子錠導入に向けて調整している。事務局では、抱える業務が多岐にわたっていることが課題である。
- 今はモデル事業と並行して土日の部活動があるため、参加する子どもたちが困る場合がある。モデル事業を実施している時間は、部活動を重ねないように学校と協力し合うことが必要だと思う。
- 部活動地域移行として、子どもの受け皿をたくさん作っていく方向に間違いはないと思うが、会場や受益者負担を考えると、子どもたちに平等・公平に行き渡っているのか、ニーズに合っているのか難しい問題だと感じる。
- モデル事業は、予算を確保して一定の条件をかけながらモデルとして実施している。あれもこれもと求めすぎず、どこまでモデル事業として支援していくのか考えていかなければいけない。
- 中学校で部活動に入るので、習い事を辞めなければならないという声も聞く。運動だけでなく、さまざまな小学校からの習い事をそのまま続けられるように、今後の部活動の形が変わっていくことを小学生にも伝えていかななくてはならない。

（2）令和6年度部活動地域移行検討協議会 協議内容について

- 事務局から以下のように提案があった。
 - ・今年度も6回の協議会を予定している。第2回協議会では、後期のモデル事業、新たに地域クラブを立ち上げる際の参入条件、今後の大会出場方法について協議したい。第3・4回協議会では、前期モデル事業の課題解決策、未実施種目の実施方法、来年度に向けた教職員・部活動指導員アンケート調査の内容を提案したい。第5・6回協議会では、モデル事業を経て自走で運営する種目と、さらにモデル事業を実施しながら運営の形を作っていく種目の支援の形を検討したい。
- 部活動のこれからの流れについては、「地域移行」と「地域連携」がある。中核市や他の地域の部活動の流れを参考にしつつ、一宮市なりの方法を考えていくことは大切である。
- 今の子どもたちのニーズを把握せずに進めるのは大変危険である。アンケートを実施したのが1年半前であるため、もう一度アンケートを実施する必要がある。

5 一宮市教育委員会あいさつ（教育長）

6 閉会のことば